

ゴミゼロ通信



発行
「ゴミゼロ」静岡
岡市民ネットワーク
編集責任
壺阪道也

1~2面
静岡市民百人
からの提言に
参加します
2~3面
ア-スふうさん
に行ってきました
4面
山梨県
はリユース
食器大国!

「静岡市民百人からの提言」

第一回会合開かれる(9月6日)に参加します

大胆・挑戦的な

ごみ減量計画の実現をしたい

「静岡市民100人からの提言」に参加します。

ふとしたことから、静岡市が市民を募集していると聞きつけ、応募をし、去る9月6日第一回目の会合があり、参加した。

その目的は、資料によると

「市民が一方的な行政サービスの受益者としてではなく、活動の主体となって静岡市の未来を築きあげていくための知恵や新たな価値を創りだすこと」「市民が主体的にとりくむべき事柄について『市民が何ができるのか』の提言をまとめ、11月29日に市長に報告すること」とある。

いくつかあるテーマの内、ごみ問題に関係がありそうな4番「生活環境」を選んだ。参加した静岡市民100名ほどのうち、20名がこのグループに所属する。11月29日までに数回の会合を持って、市長への提言をまとめることができる。市民が直接市長に意見を言える静岡市にしては、珍しいくらいのビッグチャンスと思いきり勇んで参加した。

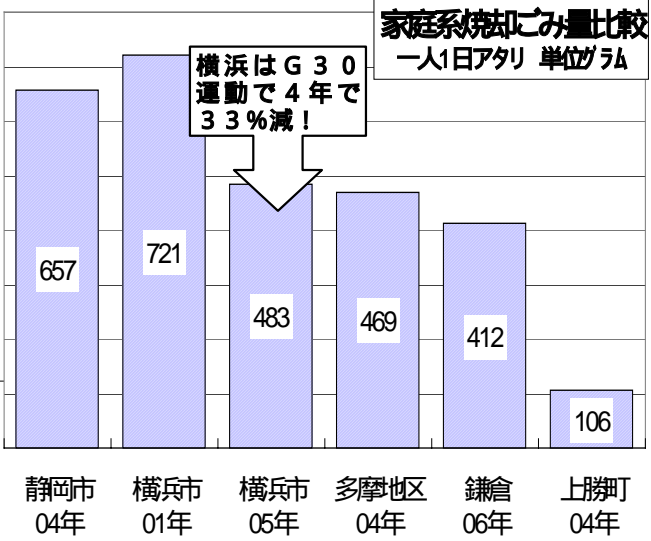
タウンミーティングでも市長に質問しました

実は、並行して、静岡市内40箇所くらいで、市長とのタウンミーティングと称する市長と市民の対話集会が開かれている。その内の一つが9月3日大里公民館で開催され、居住地区外ではあったが、私も飛び入り参加。

私の質問意見は3点。

- (1) 静岡市にも大胆な挑戦的なごみ減量計画を
 - (2) 市民に親しまれたゴミゼロフェスタの存続を
 - (3) 静岡の多くのイベントに「スペースふう」のリユース食器の導入を。
- 市長の答えは、
- (1)は「旧静岡市と旧清水市と比べると清水の方が、ごみ減量意識が高いということにふれながら、ごみ減量はがんばりましょう」
 - (2)「担当部署に伝えます」

家庭系法にごみ量比較
一人1日あたり 単位グラム



静岡市の焼却ごみは圧倒的に多い

があるかはわからないが、私はこの「100人の提言」に積極的に関与して、何としても静岡でもゼロウェイスト宣言とは言いえないまでも、画期的な「ごみ減量計画」を提言したいと考えている。

却ごみは圧倒的に多い

当会を主催した静岡市企画部長は、「静岡にもごみ減量プランがある」と「5年で5%減」を私に示した。静岡県内を比較しても、一人一日あたりの焼却ごみ量が圧倒的に多い静岡市(657g)。東京都多摩地区30市町村平均(469g)の約1.4倍、最近G30でゴミ減量に成功した横浜市(483g)、もちろん遠く及ばない上野町(106g)……。残念ながら、静岡市の5%減は「ごみ減量計画」

「百人の提言」の役割

9月6日の「100人の提言」の会合には静岡市長も参加して、私は3点の質問・意見に関する資料を持って、市長に直接手渡した。市長は挨拶の中で、「行政を市民がチェックする、問題があれば強い意見を出すことが重要。NPOの果たす役割が大きいので今後に期待している」と述べた。どのくらいの成果、意味

とは言えるようなものではない。

「静岡版もつたいたい」スピリットをライフスタイルに

市長の提案とされる資料の4【生活環境】では、「静岡版もつたいたい」スピリットをライフスタイルにと題して問題提起がされている。(1)静岡市は全国有数の自然環境に恵まれている(2)一方地球環境破壊はさまざまに進んでいる(3)そのためエネルギーの浪費や廃棄物の排出を抑制するため、生産システム・ライフスタイルの変更「循環型社会の構築が求められ(4)4Rの行動原則の徹底が重要と結んでいる。まったくその通り。それならそれに沿って様々な提言は可能だ。

そのためには静岡市の現状把握が重要だ。ポイントは(1)静岡市の焼却ごみ量が異常に多いこと(2)分別リサイクルよりも効率的ごみ処理として焼却中心であること(3)灰溶融炉を導入したものの最終処分場の危機が続いている

ことであろう。

4Rを軸に大胆な提言を創ろう

市民に求められているのは市長の提案どおり4Rの徹底であり、より具体的な行動である。つまり、(1)まず焼却より、リサイクル(2)リサイクルよりリユース(3)リユースより発生抑制を求めるような行動・生活スタイル・事業のあり方である。

「もつたいたい!どうせ燃やすならそのエネルギーがもつたいたい。」

「もつたいたい!それは資源なのだから燃やしてしまうにはもつたいたい。だからリサイクル。」

「もつたいたい。そのリサイクルは税金もエネルギーももつたいたい。だからリユース」というような具合だ。ここで、あまり具体的なことを踏み込むと、これからの第4グループでの討論に委ねる意味で控えておきたい。

自己紹介の会合で参加者の一人のEさん(茶業)が、素敵な透明お茶持ち運び容器を

紹介してくれた。使い捨てのペットボトルに変わる持ち運びができて保温性に優れた水筒みたいな容器。アイデアやお気持ちに溢れる仲間たちと一緒に考えられることは、とても素敵なことだと今からワクワクしている。そして、市長が言うようにやはり「行政にはつきりもの意見を言わなければならぬ」だろう。市民の自主的行動宣言はとても重要だが、行政の仕組みが応援してくれないとこれは、犬の遠吠えに終わってしまう。(9月10日 壺阪記)

「スペースふう」さんへ行ってききました

実は帰りに、生まれて初めて甲州名物「ほうとう」を食べたのです(壺)

静岡から約2時間国道52号線を北上。2台の車に分乗して7名で去る9月3日の午前中9時〜12時、みっちり3時間「スペースふう」を見学してきた。

8月5日の「スペースふう」来静以来、もう少し話を詳しく知ろうと考え、それなら行くしかない訪問を計画。でもとにかく忙しい永井理事長、この日の訪問予約もかなり無理して時間を作ってもらった。忙しい中時間を再び作

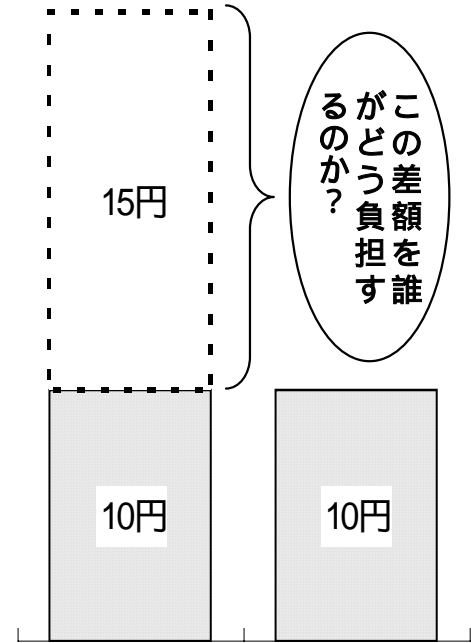
汚れたまま返却OK!
スペースふうレンタル食器工程
 使い終わった食器の受け入れ
 ・数量確認

- 一時ツケ洗い
- 本格手洗い
- 機械乾燥滅菌作業
- 選別梱包作業
- 種類別保管
- 出荷の工程

の受け入れ・数量確認 一時ツケ洗い 本格手洗い 機械乾燥滅菌作業 選別梱包作業 種類別保管 出荷の工程

300坪の敷地、格安の家賃それでも25円のレンタル料は安すぎる。スペースふうさんは、30坪の敷地に、大きなプレハブが3つほど連なっている。そこで、「使い終わった食器

本来なら使い捨ての方が高く
なければならないのに.....



レンタル食器 使い捨て食器

使い捨て容器に対抗できない。作業効率を上げるためには、本格的自動食器洗浄機導入等の更なる設備投資が必要になる。

「本来なら、使い捨て容器の方が環境復元コストも含めれば、高くつかなければならぬのに、使い捨て容器は10円、環境にやさしいスペースふうのレンタル食器がずっと高い。これは、今の経済原理・仕組みの問題点だ。」と永井さんは力説した。

ふうさん方式のこの手軽さなら「使い捨て」に抵抗できる

元々私たちがイメージしていたリユース食器の方法は、

昔からあるその現場で洗う方法だった。二年前のゴミゼロ推進全国大会で、ボランティアを数十人集めて静岡のツインメッセでの環境森林フェアで、汗を流し、必死に手洗いをした経験がある。そしてその大変さを克服した方法として、富士のごみを考える会が導入した現場に自動食器洗浄機を持ち込む方法があった。全国のいくつかの拠点では、自動食器洗浄機を載せた車もある。しかし、それでも現場での設備、人の配置、コスト等は、「使い捨て容器の手軽さ」と比べれば残念ながら、結構大変なものがある。

ル食器方式は、貸し出した食器は汚れたまま返してもらえば良い。使い終わった容器を入れるコンテナも工夫がされている。少なくとも現場では、飲食物を売る業者と消費者には、使い捨て容器並みの手軽さがあることが、この方式の特徴である。「増穂町から日本を変える」と意気込む根拠は、ふうさんのレンタル食器の使用する側の手軽さだ。ただ、例えば使い捨てカップは1個10円なのに、このレンタル食器のカップのレンタル料は25円。その差額の15円を誰がどのように負担していくかが仕組みづくりだけの問題点はある。

レンタル食器の生みの苦しみ

毎年11月に増穂町で開催される「甲州増穂まつり」(「ほうとう祭り」)の際、三千食のほうとうを振舞うことが祭りの目玉企画として、大量の発泡スチロール製のどんぶりごみになっていった。町会議員である永井さんは、この問題を町議会に提案すると、町役場の担当課長もすぐに動き出し、1個240円もする生分解性プラスチック製のどんぶりを毎年三千個用意することとしてくれた。また「来年も持つて来るよう心がけてほしい」旨呼びかけていたものの、そのどんぶりは見た目も良くなく、使い終わったどんぶりの多くは結局廃棄されてしまった。

そこで永井さんは、この問題をリユース食器で解決できないか、すべりすふうの中大論争をしながら提案した。レンタル料金のあり方、百万〜三百万円するプラスチックの成型金型代金、難問山積。しかし、積極的な大学教授との出会い、「ほうとう祭り」最大スポンサーでもあり、(株)はくばくの社長(現会長)との出会い(実はすべりすふうのごく近所にお住まい)など、永井さんたちの努力と熱意が、回りの環境を創り出していた。そしてついに02年11月の「甲州増穂まつり」において、リユース食器でほうとうを振舞うことができた。一杯百円・デポジット金合わせて二百円である。増穂町では、このリユース食器を推進するために「25円のレンタル料のうち12.5円を補助」する支援制度がある。とにかく、山梨県内をくまなく回り、できるだけ市長へ直接会いながら、営業活動を続けたそう。その努力が、報われるかの成果が上がっている。そして今や、全国ネットの立ち上げと動いている。ふうネットが今動き出すとしていいる。岩手、東京、鳥取、九州などで、「スペースふう」さんの指導と協力を受けたNPOが続々と誕生し、「ふうネット」として動き出すとしていいる。私も是非、遅れてでも参加したいと思いつつ...。(9月10日 壺阪記)

ふうさんについて経済産業省が聞き取りレポートを作成しています。
以下のアドレスからそれを見ることが出来ます。
www.kanto.meigo.jp/sei
saku/community/data/jir
e12_nov16ty.pdf

04年9月～05年8月実績

地域	件数	食器貸出数
山梨県	107	64,113
神奈川県	26	17,945
奈良県	6	14,270
東京都	18	10,842
香川県	1	5,630
福岡県	5	5,350
福島県	6	5,260
大阪府	6	4,940
群馬県	3	4,720
茨城県	4	4,140
千葉県	5	2,740
埼玉県	5	2,500
北海道	2	2,476
岡山県	1	2,320
宮城県	3	1,380
三重県	2	771
兵庫県	1	760
長野県	3	630
石川県	4	620
京都府	3	610
鹿児島県	1	600
山口県	1	450
広島県	2	140
静岡県	1	30
計	216	153,237

「スペースふう」は
一万三千人の町(増穂町)から日本を変える！
「使い捨て食器No!」と奮闘中！

スペースふう 食器貸出地域

04年9月～05年8月実績



実際の山梨県内貸出リストの一部

2004/11/14	××町産業商工課	甲州××まつり
2004/11/14	町役場	もみじ祭り
2004/11/14	子ども劇場××ブロック	××まつり
2004/11/20	生活協同組合ユーブ	生協祭り
2004/11/20	××商業高校3年C組	学園祭
2004/11/20	NPOみどりの学校	市リサイクルフェア
2004/11/21	× 町役場総務課総務係	× 町ふるさと祭り
2004/11/21	環境リサイクルフェア実行委員会	第7回環境リサイクルフェア
2004/11/21	× 日産自動車(株)本店	日産 × ふれあい感謝祭

[誰でも参加できるごみ問題関係の定例会]

「ゴミゼロ静岡」市民ネットワーク定例会

第108回 10月14日(土)午前10時～
第109回 11月11日(土)午前10時～
場所 コルクしずおか TEL054-209-8555
<http://homepage2.nifty.com/ecoinfo/>

志太ゼロ・ウェイスト市民ネット

第27回会合 10月29日(金)19時～
場所：アト焼津3F 焼津公民館
TEL&FAX：054-628-8455(村松)
E-Mail:wbs29330@mail.wbs.ne.jp(田中)

清水のゴミを考える会

10月例会 10月12日(火)午後7時～
場所 静岡市清水社会福祉会館4階 和室
静岡リサイクル協会 0543-63-1273
E mail simizu.fmc@nifty.com

「ゴミゼロプラン静岡」市民ネットワーク

連絡先:静岡市駿河区丸子新田277-4 壺阪道也
&fax054-257-3177 Email:mirai2@bj.mbn.or.jp

山梨県は リユース食器大国!

上記の表は、「スペースふう」さんから入手した2年前の実績だ。山梨県は実に年間百を越えるイベントで「ふう」さんのリユース食器が使われている。今年も十月の三日間だけで四万を越える食器を貸し出す予定と聞いている。もしこうした動きが全国で

起きればこの「使い捨て社会」に大きな地殻変動が起これるのではないだろうか。静岡県のとったの一件が恥ずかしい。チャンスはある。(壺)

「エコハウスしずおか」出展決定
「スペースふう」リユース食器の大宣伝を実施(お手伝い募集!)

第4回しずおか環境・森林フェア
十月(二〇日(金)～二二日(日))
一〇時～一七時(二二日は一六時まで)
場所:ツインメッセ静岡北館